

こんにちは！第1回目の試走会は小松方面、輪島方面、金沢市、そして地元七尾市からの皆さんが参加し、のどじまトライアスロン大会が賑わうことを予感させるものになりました。

第2回は未定ですが、また企画したいと考えています。今回試走会を終えての感想を聞いてみたところ、レースの勝敗を分けるのはバイクパートであるとの意見が大半を占めました。

上る、下る、上る、下る、の連続するコースは、走り慣れていた方が断然有利です。レースまでの間に、2度、3度と試走することをお勧め致します。そして、試走後は能登島の民宿や和倉温泉で疲れを癒す、という褒美はいかがでしょう？

レース前日はのんびりした気持ちで宿泊するのも難しいでしょう。レース後に宿泊できれば良いのですが、前日、当日、翌日、の3連休を取得することが難しい事情もあるでしょう。

そんな人たちも、試走を兼ねたトレーニングを終えてからの温泉宿への宿泊ならば、身も心も癒されること間違い無しです。能登島や和倉温泉には美味しい食事と素敵な景色が満喫できる素敵なお宿がたくさんあります。

という流れから、今回の参加者を紹介するシリーズでは、和倉温泉『多田屋』六代目、多田健太郎さん（40歳）にお話を聞いてきました。多田屋の若旦那さんが、いよいよ初めてのトライアスロンに挑戦します。その意気込み、仕事、家庭、趣味との向き合い方、そして素敵なお宿の潜入レポートを書いてみました。

平成29年3月25日（土）のどじまトライアスロン大会の試走会を終えた昼下がり、フェイスブック担当者たちは和倉温泉の宿『多田屋』さんにお邪魔しました。多田屋さんはメインストリートから少し離れた高台に佇むお宿です。

多田屋さんといえば、駆け落ち、で有名だそうです。…え?? 駆け落ちですか?? Σ(°Д°)

<http://tadaya.net/story>

聞いてびっくり、多田屋さん三代目の女将は佐賀鍋島藩主のお嬢さんだったそうです。そのロマンティックなお話は多田屋さんのホームページのこちらに書かれています。自分は四十路もなかばですが、この記事を書いているタリーズコーヒーで不覚にも涙いたしました。

人生を振り返ってみたとき、タラレバばかり言っていたならば残るのは後悔だけ。トライアスロンも人生における決断も、するかしないか、その一言に尽きます。ひるまず、とらわれず、精一杯生きた人にだけ、道はひらけてくるものではないでしょうか

さて。タラレバ、駆け落ちはさておき、土曜日の午後、そろそろチェックインする宿泊者が押し寄せる時間帯を目掛けてアポイントを取る傍若無人な私たちを、多田さんは、フロントの前でこやかに迎えて下さいました。

おおお!? あの方が? ……若いつ。色白? なるほど、絵に描いたような若旦那!

多田健太郎さんは2014年に多田屋の六代目に就任。北陸新幹線が開通したのがその翌年で、以



来、多忙な日々を送ってきました。

そんな多田さんがいまどうしてトライアスロンなのか？を聞いていきます。

○多田さん（以下、若旦那さん）のこれまでについて教えてください。

幼い頃は、野球やバスケット、中学生の頃は野球、高校ではバドミントン、大学ではスカッシュ、と、いろいろなスポーツを経験した。実は7年前に地元で開催されている和倉万葉の里マラソンに参加したこともある。しかし、それ以来、運動習慣は途絶えていた。

会社の経営に携わり、社員の人生をも背負う立場になったことから、出来る限り会社に張り付き、社員と共にあるのが自分の務めであると考えていたので、デスクワーク中心の日々が続いた。そして、いつのまにか健康に気遣うことが疎かになっていた。

そんななか、健康診断でまさかの脂肪肝が発覚。とてもショックだった。

健康を損なっていたのでは仕事にも差し支えると気付き、それからは自転車に乗り始めた。写真を撮るのが趣味なのでカメラを持ってサイクリングが出来ればいい、そうすれば健康も取り戻せるかも、と、少し前までは考えていた。ところが、しかし……。

○トライアスロンのレースに参加してみようと考え始めたのはいつ頃からですか？

地元の、もう亡くなられた方に随分以前から誘われてはいたし、地元の有志で美味しい肉を食べる集まりが定期的に行われていて、そちらで一緒になる人たちの中に、トライアスロンをする方や、自転車に乗る方、マラソンでサブスリーをする方がいて、一緒にやらないかとの誘いがあり、今年は地元でトライアスロンのレースが開催されるという話を聞き、また、開催日が自分の41歳の誕生日にあたる、これは挑戦するしかない、自分は鉄人社長になるのだ！と決意を固めた。

○初めてのトライアスロンに臨むに当たって、どんな不安がありますか？

不安しかない。（笑）練習時間の確保が難しい。トライアスロンのレース全体の流れが掴めていない。本を購入して読んでみたが、雲をつかむようだ。水泳の練習方法、泳ぎ方、バイクの練習方法や、回し方、コンタクトレンズが外れるのではないかと、という不安もある。

○トライアスロンへの参加を決めたとき、周囲の反応は？

妻（若女将）は『運動するのはいいことだからやったらどうか』と勧めてくれた。多田屋の社員もリレーチームやボランティアとして参加する。家族や社員の理解と応援があるのでレースをとっても楽しみにしている。実は、同じく初めてのトライアスロンに挑む地元の同級生（小中高、大学、そして同じく温泉宿経営者）もいるので心強く感じている。

○仕事、家庭、趣味との向き合い方について聞かせてください。

仲間と一緒に練習出来れば良いが、土曜、日曜は仕事柄とても忙しく、また、平日は遠方で会議があったり、子供たち（4歳、7歳）の迎えや世話などを、妻（若女将）と協力してやっている、まとまった時間の捻出はとても難しい。

今後はレースに向けて1時間あればバイクに乗りたいと考えているし、ローラー台の購入も視野に入れている。スイムで足切りに合わないようしっかり身体を作って、子供たちにゴールする自分を見てもらいたい。出来れば家族皆でゴールしたい。

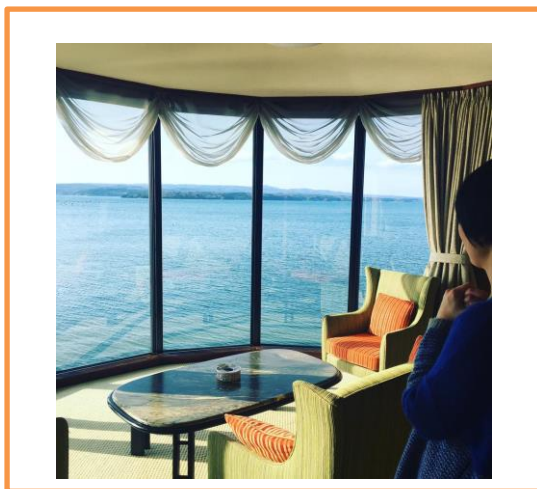
.....

経営者という立場は、責任も大きく、また家庭では4歳、7歳の子供たちの父親。奥様は温泉宿の若女将ともなると、家事は分担という生易しいものではなく、家庭においては、やれることはなんでもやるくらいの気持ちでないと難しいでしょう。社会人がトライアスリートになるには隙間時間のマネジメント能力が問われます。それが経営者ならなおさら時間のやりくりが難しいことが予想されますが、それでも、新しいことに挑もうとする若旦那さんのポジティブ思考があれば、レースまでの日々も軽やかに切り抜けていくことでしょう。



また、若旦那さんは地元のレースを盛り上げようと和倉温泉の各宿にも積極的に働きかけを行ってくれています。これからの和倉温泉を背負って立つ若旦那さんが笑顔でゴールする姿を見るのがいまから楽しみです。

座談会后、多田屋さんの館内をご案内いただきました。その日は空室となっている立派な客室（実行委員長いわく人生の成功者が泊まる部屋）を見学することもできました。



赤いじゅうたんの敷かれたアプローチはゆるやかな傾斜でフロントのあるロビーへとつながっていて、そのロビーからは七尾湾がどーんと、一望できます。和倉温泉のお宿はどちらも非日常空間の演出に力を注いでいますが、多田屋さんもこの大規模なお宿にも負けないくらいの意気込みを感じました。

全60室。海に手が届きそう？いえ、それどころか、お部屋から釣りが出来るほど海に接近した客室もあります。館内では釣竿を担いだ浴衣の宿泊客とすれ違うこともありました。

釣竿を担いだ集団に何事かと目を疑った後で、本当に、客室から釣り糸を垂れているを目撃して、更にびっくりです。(◎_◎;)

もちろん、お魚が釣れたら調理して下さるそうなので安心して下さい。(笑)

施設内にある栈橋から飛び込んだらお手軽にスイム練習できるじゃん！いいね！のような、私たちのおバカな無茶振りにも、絶妙な返しで一同を爆笑の渦に包み込んでくれた若旦那さんがのどじまトライアスロン大会を盛り上げる仲間になってくれて私たちはとても心強く感じました。

みなさんもレース会場で若旦那さんこと多田健太郎さんを見掛けたら、<若旦那！> <多田さん！>と声を掛けてあげてくださいね！

そして素敵なお宿、多田屋さんに、ぜひ宿泊してください。